

1977年7月7日

談話会通信 No. 18

東京蜘蛛談話会

おもな内容

総会・例会の報告	P5~7
夏の採集観察会	お知らせP1
入会・住所変更	P1
蔵書目録No.81~86	P7

毎日もししる日が続きますね。毎年恒例、6月の総会例会も終わりました。梅雨もあとわずか。梅雨明けよりひと足お先に通信18号をお届けいたします。夏期観察会の連絡等がありますので、お見のかけのないように。
(梅雨の中、7月7日オリヒメはヒコホシにあえるでしょうか。)

新会員の紹介・住所変更

住所変更の連絡をいたしました。

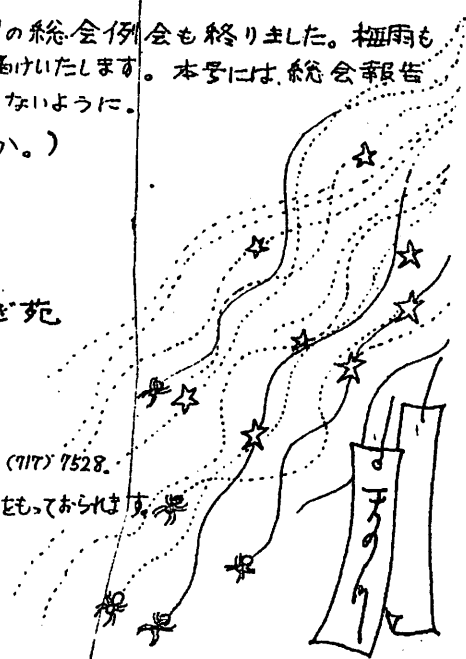
吉田哉さん 〒590 堺市旭ヶ丘北町4-143 15さき苑

長島忠義さん 〒190-12 東京都瑞穂町箱根ヶ崎532
TEL. 0425(56)1471

入会

近藤恭子さん 〒152 東京都目黒区緑ヶ丘1-17016 TEL. 03(917)7528.

恭子さんは玉川大学農学部の子生さんで、その染色体に興味をもっておられは



夏期観察・採集会のお知らせ!

夏の観察採集会 7月31日(日)

夏の観察採集会を計画いたしました。春とはまたひとおじ違う虫蜘蛛たちに出あえることと思います。観察や採集をしながら虫蜘蛛なかと話ができるのも楽しみの一つです。是非みなさまの予定に入れておいて下さい。

日時: 7月31日(日) 午前10時集合

集合場所: 中央線 高尾駅北口(新宿から1時間)

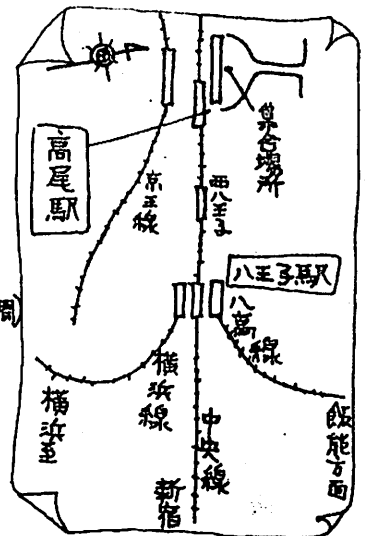
場所: 八王子城跡(造形大学方面)

持参するもの: 昼食: 採集観察用具 カサなど

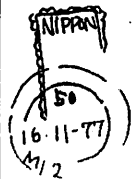
交通: 右図

※雨天決行

《連絡先》 田中理恵 0425(57)0355



以上 東京蜘蛛談話会



きまぐれ ポスト

通信 No. 17をお届けしましたと
る、さそく あちらこちらから 便りが
いただきました。あらためて 一通行
のホット ラインでないことを感じ
ました。いろいろ手のとどかない所が
あると思います。希望 意見・苦情
なんでも お寄せください。改善でき
る時は、とんとん改善していきたいと
思っています。

▶ 董鳥先生から …… 6月1日付で通信会領の
お手紙が いたりました。こちらの 発送が 5月31日
でしたので、後けり早速にお手紙をくださったこと
になります。大感謝！これからも いろいろ内容についての
アドバイス お願ひいたします。

「揮啓 今日 便りを いたりました。仲々よい通信
が 出来まして ありがたうございませす。談話会の仕事
も重要でありますから、頑張、てください。6月26日
の総会を楽しみにしております。 敬 具」

ついでに 独断で 紹介して しまいました。失礼に
あたりましたら せめてください。

ほかにも やはり 通信について 近藤 昭夫さん、
小澤 實樹さんからも 手紙を いたりました。やはり
さそくの ホットラインを 私だけのものにするのは、もっ
たいなくて、紹介して しまいました。

▶ 近藤 昭夫さん …… 「談話会通信 楽し
読ませて いたりました。編集者が代ると通信
の 雰囲気も 変わる。結構なことだと思います。従
苦勞様です。私も以前 ある 地方学会の 会報の
編集・印刷・発送を 引受けて いましたので、内容
の他に、作り方にも 興味を持っています。今後
共、大いに 頑張、て下さい。

ついでに 気を付けて ほしいことを ひとつ、封筒
に 発送者の アドレスが ありませんでした。会
員が 受取れば、中を見ますので、発送者は わかります。
けれども、差出人の 住所 氏名を 書くのは 郵便
を利用する者の 最低の エチケット だと思いますが、
— 中略 — 封筒に 謄写印刷を入れておくのも 手
だと思います。」

発送者と 発行者が 異なる 場合もあります。
発送者が は、せりするように したい と思います。
(編集者より)

▶ 小澤 實樹さん から …… やはり 6月 1日
付で お手紙を いたりました。

「前略 『談話会通信 17号』 着きました。ほと
んどに ご苦勞様です。何のお手紙も しないの
とにかく 待ち遠しいのです。それだけに ドキッ
とするほど 封を 切るのが 楽しみ なのです。

ほとんどのことを 言う。いささか 見にくい 頁も
ありますが、どれもこれも、生き生きとした 書
きで、かやがやと みなさんの 声まで 聞か
せて くれる 気持ち します。不勉強で、ニュースが 送れ
ませんが、いづれ ながら 発信 出来る ように つ
めます。ありがとうございます。ご 自愛 下さい。

敬 具

「ドキッとするほど 封を 切るのが 楽しみ なの
です。」の一言 …… ドキります。とかく 忙しさに
流され いいかげんに なりかちです。大七かに
して いかなくては …… 確かに No. 16・17の 印
刷が 良くない ようです。No. 18から 良くなる よう
に 努力 してみます。

小澤さんには KISHIDAIA No. 41の 表紙
をつくって いたりました。表紙についての 一言
を 添えて No. 41が てきあがり ました。

▶ 53・54年 運営委員 になって とうとうの 松満
さんに 通信のことを 聞いて みました (突然のこと
目を 白黒。それでも さすが 一言 いたりました。)

— 女性的 通信に 感じた 事 —

男性の 所より 今まで 届いた 談話会通信 新居
あたらに 女性の 所より 届いた 16号 と 17号。開封
一番 内容は ともかくとして 「読みやすいな。」
これが 素直な 感想 である。

今回の 16・17号を みると 内容的には 全体的
に 空白が 多いのでは? (50円で 送れる 重さ
は 決まっているのだから、もよ 50円を むだに しない
ように したら?)

また CMが 少し 多いのでは ないか と思った。も
っと 会員 近報が 乗、ていれば、あの人は いま 以
なことを や、ているのか などと わかるのでは ない
かあるうか。

しかし 以前より 字が 細く、とても 読みやす
な ったです。以前の 男性 編集長 御免な
さい。 (6月 26日)

会員 近報は 企画 中 ですので、おまち ください。
(編集者より)

▶ 松本誠治さんから …… すてきな話が
おくられてきました。通信にもこのような話
が登場してくると楽しいですね。松本
さん一言とともに紹介します。

「ちょっと遊びました。通信も文芸読みたいに
なっていますね。でもこれは、公衆衛生学と開
通のある重要なフモの役割についての話です。
— 中略 — キリシヤ神話とドイツの遠宮を
もずびつけて、ハロテン風にもどきました。とはい
えねではなく、「外伝」ですからありそうなこと
と思っています。はじめは芥川のクモの糸風に、
アラクネをいじめた罰というこにしようとしたが、
どちらともどちらなのでやめました。それにその内幕
だと完全にハロテンになってしまいますから。

2 - June - 1977 松本誠治

アラクネとアテナ

— その後 —

— あらすじ —

ギリシャのコロホンという町に住んでいた美しい少女
アラクネは、機織りが自慢で、ついに芸術の女神
アテナと競争することになりました。競争は、アラクネ
のちでしたが、アテナはそれを憎しみ
アラクネに、つくあつたので、アラクネは
自殺しました。アテナは、憎んでいたこと
でありましたが、かわいそうに思い、
アラクネの命を救い、フモの壁に
変えました。

— その後 —

フモに壁を変えられたアラクネは
悲しみのうちに毎日美しい網を
張っていました。女神アテナも
機織競争については
もう何もいわずに
以前と同じように
芸術の女神としての
仕事をすることにな
りました。何年か後の夏、
アテナは病気になる
隙の間、熱に
うかされ、仕事も
手につきませんでした。
それから毎年
夏になると同じ病気が
アテナを襲いました。



セウスはそれを聞いて大変心配になりました。
「アテナが毎年のように病気になるのでは、この世界
の芸術はとうなることかわからない。どうすれば
よい。誰かよい智慧はないものか。」

セウスは世界中に医者や学者を探させ、アテナの
治療をさせましたが、病気は軽くなっても完全にな
おるということはありませんでした。それを伝え聞い
たアラクネは、驚きました。

「アテナ様は、以前は私の競争相手だったけ
れども、芸術の女神だし、セウス様も大変心配に
しておられるならもう一度競争しよう」と言っ
てみれば「死気まといもどすかも知れない。今度
は、私達の自慢のあいではなく、一糸に機織り
ができるようになればうれしい。」

こう思い、アラクネは、夜の間にセウスとアテナの官殿
を訪れ、窓という窓、入口という入口に、美しい網
をセッセと網りました。

「さあこれをみればアテナ様は死気にならな
い。」

網には「アテナ、死気になって。」と白い機織を
つけて、美しい網はおも上りました。

さて、朝日になりアテナが目覚してみるとアラク
ネの織った網が朝日に輝いていました。アテナはうれ
しく思い、早く死気にならなくては、と考えました。

医者や学者も網の美しさに目をうはわれま
したが、そのうちの一人が、網に何かついて
いるのをみつけました。よくみると遠いドイツとい
う国では「悪魔の使い」といわれて恐れられてい
る蜘蛛でした。学者達は、きっとこの蜘蛛がアテナの
病気をなおさせたのだと考えて、アテナにすぐ
糸網を付けておくようにいいました。

その翌年からは、アテナは同じ病気
にはなりませんでした。

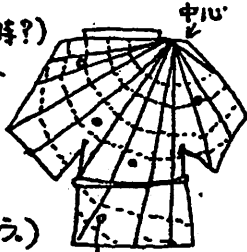
それを知ったセウスは、アテナと
アラクネを仲直りさせ、アラクネに
は「魔をよけ」のための織
物を作らせるとい
う特別の仕事を
与えられました。

文：松本誠治

え：田中理恵

TV. テレビ使りが 熊田さん
TV. 松本さんから おくられてきました。

金曜日 夜10時(9時?)
からの新必殺仕置人
にクモの網もおの
ハンテン(「アラア」)を
着た人が出てきます。
(みなさんも ちよと
みてはいかがわてしやう)



(熊田) ヒヨヒヨに虫が
かかっている。

本日 1977年6月14日(火) NHKの8:00AM
のテレビで 徳島県の「クモ騒動」が放映
されました。徳島県 松代町(たしか)では、
ウナギの養殖場から発生する力をエサに
クモが多量に発生して住民をこまらせて
いるそうです。アナウンスでは「イエホクモ」
となっていてはいましたが アシナカ差、不ノブ
も居間にでてきました。「死澤中切に
襲まされるので こまる。」「家の中に やたら
に入ってきて こまる。」といていました。画面
には 八木沼先生の図鑑もでてしま
した。とりあえず お知らせまで。

(松本)

佐藤さんからのやさしい便りを紹介いた
します。

— 愛しのクモに捧ぐ —

クモといふ名の生きもの
私たちと同じ生きもの
同じ大地の上に生れ
同じ空気を吸い
理由のない 直感にあいながら
じつとそれにたえて
一所懸命 生きつめて来たクモたち
かれらは 何もいわない
たれも うらまない

死といふ名の生きもの
私たちと同じ生きもの
生存競争の渦に巻きこまれながら
恋愛と結婚 出産 して死...
それを たたのドラマだといふのは、
ただの儀式だといふのは
かれらにして おきりにも 可哀想だ
よるこむや かかしみも
あてよいはすた

かれらは 何も いわない
たれも うらまない
人間界も 気高く せして雄々しい死
私は かれらを
心より

愛す.....

す子



編集手帳

現代の大新聞...
編集手帳...
松本...
佐藤...
クモ...
死澤...
八木沼...
アシナカ...
不ノブ...
イエホクモ...
ウナギ...
徳島県...
NHK...
1977年6月14日...
8:00AM...
放映...
松代町...
ウナギの養殖場...
発生する力をエサに...
クモが多量に発生...
住民をこまらせて...
いるそうです...
アナウンスでは「イエホクモ」...
となっていては...
が アシナカ差、不ノブ...
も居間にでてきました...
「死澤中切に...
襲まされるので こまる。」...
「家の中に やたら...
に入ってきて こまる。」...
といていました...
画面には 八木沼先生の図鑑も...
でてきました...
とりあえず お知らせまで...
松本...
佐藤さんからのやさしい便り...
紹介いたします...
愛しのクモに捧ぐ...
クモといふ名の生きもの...
私たちと同じ生きもの...
同じ大地の上に生れ...
同じ空気を吸い...
理由のない 直感にあいながら...
じつとそれにたえて...
一所懸命 生きつめて来たクモたち...
かれらは 何もいわない...
たれも うらまない...
死といふ名の生きもの...
私たちと同じ生きもの...
生存競争の渦に巻きこまれながら...
恋愛と結婚 出産 して死...
それを たたのドラマだといふのは...
ただの儀式だといふのは...
かれらにして おきりにも 可哀想だ...
よるこむや かかしみも...
あてよいはすた...
かれらは 何も いわない...
たれも うらまない...
人間界も 気高く せして雄々しい死...
私は かれらを...
心より...
愛す.....
す子

鈴木勝浩さんから...先日六月十五日新聞の巻末より
クモが使われた政州のまてまてマフラー...
クモ...
死澤...
八木沼...
アシナカ...
不ノブ...
イエホクモ...
ウナギ...
徳島県...
NHK...
1977年6月14日...
8:00AM...
放映...
松代町...
ウナギの養殖場...
発生する力をエサに...
クモが多量に発生...
住民をこまらせて...
いるそうです...
アナウンスでは「イエホクモ」...
となっていては...
が アシナカ差、不ノブ...
も居間にでてきました...
「死澤中切に...
襲まされるので こまる。」...
「家の中に やたら...
に入ってきて こまる。」...
といていました...
画面には 八木沼先生の図鑑も...
でてきました...
とりあえず お知らせまで...
松本...
佐藤さんからのやさしい便り...
紹介いたします...
愛しのクモに捧ぐ...
クモといふ名の生きもの...
私たちと同じ生きもの...
同じ大地の上に生れ...
同じ空気を吸い...
理由のない 直感にあいながら...
じつとそれにたえて...
一所懸命 生きつめて来たクモたち...
かれらは 何もいわない...
たれも うらまない...
死といふ名の生きもの...
私たちと同じ生きもの...
生存競争の渦に巻きこまれながら...
恋愛と結婚 出産 して死...
それを たたのドラマだといふのは...
ただの儀式だといふのは...
かれらにして おきりにも 可哀想だ...
よるこむや かかしみも...
あてよいはすた...
かれらは 何も いわない...
たれも うらまない...
人間界も 気高く せして雄々しい死...
私は かれらを...
心より...
愛す.....
す子

談話室

談話室では、活動内容の報告や、運営委員会に入ってくる情報紹介をおこなっています。

◆ **会員名簿** ... 談話会員80名の名簿と規約を同封いたしました。これは、全て梅林さんが作成してくださったものです。前回に引き続き、名簿を作成してくださった梅林さんに大感謝です。全員どうしのコンタクトに活用できそうです。

◆ **いろいろな情報が入ってきます。**

東豆蜘蛛学会大会が東京で開かれます。8月20・21日(土・日)会場は、八王子私学教育研究所(研修センター)です。興味をもたれた方は、事務局までどうぞ。

◆ **水くモ発見情報** ... ラジオなどでご存知の方も多いと思います。KISHIDAIAの10大ニュース予告欄のこともありますので、これについては、次号の通信でお知らせいたします。

◆ **¥3050-も!!**

6月の例会 総会の席上、受付に置きましたKISHIDAIA発行用のカソリン代と称したカンに同会出席者の皆様より多くなる御寄付をいただきましたので、この場をかりましてお礼申し上げます。

寄付金額 **¥3050-**

皆様の御好意により KISHIDAIA 42号が除く頁数の多いものになってゆきます。編集局としては喜んでいただきます。通信12号にもありますように、談話室は非常に燃費の安い場所だと思っております。そしてこの様に皆様が「3席、また一席と追加してくださるカソリンは KISHIDAIA の強さかなかとなって反映されることで、ありがとうございます。(熊田)

◆ **総会・例会**

総会例会の報告をいたします。26日はめずらしく20分程度で会が始まりました。司会は同席屋で多めに話している榎田さんでした。

会は、堂島先生からの一言で始まりました。先生の一言を紹介いたします。「いきなり何を話していいかわからない。仲間が話せることは、たいへん嬉しいことです。それだけに会を盛り上げることは大切なことです。しかしまた会員の平均年齢があがるにつれ、会というものはとかく質が低下してくるものです。多いに KISHIDAIA・通信などの活動が中心になり、活動拡大にも努めてください。……」

このほか先生は、クモという生きものの食生活をいんどん伝えてほしいとおっしゃっておられました。(私ごとですが、先生の言葉で心に残った一言……常に私たちのなかにクモがいる。そのクモの中で私たちは、生き残っている。クモの かかわりあいを大切にしていきたい。)

さて先生の一言のあとは、自己紹介。今回は単なる自己紹介ではなく、とっておきのクモ紹介を交えたものでした。ロンドンで暮らした経験(回線や熊原さん)、自分からクモとかかわりあうようになったきっかけ、一番はじめにであったクモの音声が飛び出した。前半は、熊田さんから国見さんまでお話を伺いました。国見さんは、残念ながら午前中で帰られるということで、自己紹介を断りましたが、このような話をしていたら、日本ではまたまたクモの生活史などの研究が盛んに行われている。アメリカなどでは、生態的なまとめた研究をめぐるとき、その基本となるべきデータがしっかりと集められる。日本でももっと野外でのクモの調査をすすめていくべきだ。……

昼食後、総会が開かれました。議長と松本さんにお原良し、運営委員選出、規約改訂を討議しました。出席会員22名 全員一致で p6~7のことが決定いたしました。

さて総会後再び自己紹介が始まりました。あまりに司会の方が長すぎたため、いつも午前中でおわってしまう自己紹介が、国見さんまで続いたものですから、午前中組は毎度おわっていません。や、と自己紹介をこうして守心、午後からの自己紹介も、小沢さんから学会のモデルになったクルマクモの紹介などが、午前中にかけあつたおもしろいものとなりました。

自己紹介後、まきからし、クモのみわけかたを、榎田さん、熊田さん、松本さんにしていただきました。また、新海さんからとっておきのクモクモの話を聞いていたかったです。一同大いに勉強になったと思います。最後に堂島先生に話していたときを閉じました。

熊田隆一 → 田中理恵、島田順一、松本誠治、高橋登、直藤泰子、栗原輝代子、佐藤幸子、佐久間良三、松崎祐司、蓮沼克己、国見裕久、相本幸一、長島忠義、新海栄一、貞乙良、鈴木勝浩、梅林力、石山鉄幸、堂島泉、古次隆、小沢實樹、榎田重雄、23名。(敬称略)

以上が参加されたみなさんです。

(自己紹介順になっております。)

(以上 報告をおわります。)

東京蜘蛛談話会規約(1972年3月26日承認, 1976年6月13日一部改訂)
1977年6月26日一部改訂.

1. 会の性格 本会は、クモ愛好者の集いである。クモに関心のある人なら、専門研究者アマチュアの別なくまた年齢・性別の制約を受けず、互いに集り懇談をすることをその旨とする。
2. 会の目的 本会は上の性格に基づいて、会員相互の親睦・連絡をはかること、愛好者の底辺を拡大すること、及び専門研究についての案内・交付をすることをその目的とする。
3. 会の活動 本会は上の目的に沿うために次の活動をなす。
 - i. 会誌 KISHIDAIA 及び 談話会通信の発行
 - ii 例会・採集観察会 講演会・映画会・総会等の開催。
 - iii その他 会の目的を達成するために必要な活動。
4. 会員 所定の会費を納めた人を会員とする。会員は本会のイテウ会での活動に参加することができる。また会誌 KISHIDAIA の配布を受け投稿することかできる。
5. 会計 本会の経済的運営は、会費、寄付金、その他の収入を基とする。
 - i 会費は 昭和 52年度 53年度 1500 円とする。
 - ii 会計年度は 毎年1月1日より 12月31日までとする。
6. 会の運営 本会の活動を円滑に行うため本部・運営委員会 実行委員会を置く。また会員との連絡を明確にするため 会計及び会誌原稿の受付を置く。
 - i 本部は 運営委員会・実行委員会の連絡・統括の場とする。設置場所は別に定める。
 - ii 運営委員会は会員より選出された数名の委員によって構成し本会の性格に基づく目的の達成に必要な諸活動の企画・実施を合議の上行なう。運営委員会内に、会計・編集・総務の係を置く。委員は総会において承認を受けねばならない。運営委員の任期は2年とする。但し再任は出来たけがない。
 - iii 実行委員会は 運営委員及び 運営委員会によって委託された若干名の会員によって構成し特に活動内容 3の ii の計画・実施に当る。原則として互換時のものとする。
 - iv 会費の受け入れ、会誌、バックナンバーの発送を行う所として 事務局を置く。場所は別に定める。
 - v. 会誌 KISHIDAIA への投稿原稿の受け入れのため 編集局を置く。場所は別に定める。
 - vi 談話会通信の原稿受付及発行のため 談話会通信の通信原稿受付を置く。場所は別に定める。
 - vii その他の会員との連絡は 運営委員会及び 実行委員がこれに当る。

一東京蜘蛛談話会規約 続き一

7. 規約の改正 規約の改正については、総会において言議し、出席会員の $\frac{2}{3}$ 以上の承認を受けねばならない。改正についての議題は、全会員がその提出を行つてこたがてできる。

〔付 記〕

本部：〒191 東京都日野市豊田1896 萱山鳥泉方 TEL 0425-81-7128
 事務局：〒185 東京都国分寺市本多1-6-6 シンカ写真館内 TEL 0423-21-0289
 編集局：〒221 神奈川県横浜市中区片倉199 熊田憲一方 TEL 045-491-0792
通信原稿受付：〒190-12 東京都西多摩郡瑞穂町武蔵41 田中理恵方 TEL 0425-57-0355

53年度・54年度 運営委員

萱山鳥泉・熊田憲一・栗原輝代子・権田重雄・山田川貞一
 新海栄一・高橋登・田中理恵・蓮沼克己・松浦祐司

本会代表：萱山鳥泉， 会計・総務：新海栄一

会誌編集：熊田憲一

会計監査：国見裕久・大熊千代子

以上

規約文中の~~~~が6月26日に改訂又は追加された部分です。なお改訂前の規約は談話会通信12号に再録してあります。

東京蜘蛛談話会蔵書目録 (コピーに依ります、
 申し込みは事務局にて)

- No. 81 鈴木勝浩(1977) クモの研究(埼玉県立春日部高校生物部部誌)
 (15) 13-20
82. 梅林カ(1977) 杉並で見られるクモ-杉並の生物環境. pp 12-13
83. 三重クモ談話会(1976) しのびぐも (4) : 1-36.
 日本の稀産ハエトリクモについて(松本誠治)
 三重県下のトゲオオザトウムシの産地(孫福正)
 東海地方のクモ相瞥見(門脇千波・本庄四郎)
 津布およびその周辺のクモ相(貝発憲治)
84. 高野伸二(1977) クモと鳥と (1) 野鳥
 42(1) : 9-13
85. " (1977) クモと鳥と (2) 野鳥
 42(2) : 73-76
86. " (1977) クモと鳥と (3) 野鳥
 42(3) : 124-126

けいじばん

談話会活動で、皆さんに直接
かかわってくる 記事等をのせています。
会費について、文献に、原稿とりか
わいについて、等、事務連絡をおこな
いますので、おみのがし、ないように。

➤ KISHIDAIA No.42 原稿募集中

メセは10月30日になっております。7・8月の時期は
クモ観察には良いですね。フモトのフキあいを、その他
KISHIDAIAにもちこんで、いかがですか。楽しいKISHIDAIA
にしましょう。

〈原稿 おくり先〉

熊田 憲一 〒221 神奈川県横浜市中区片倉町
199

➤ 訂正とお詫び

「みづき」そうそう訂正は「かりて」申しわけありませ
ん。通信No.17で、大利さんの官已事を紹介しましたが
名前をまちがえて、しまいました。本文では「利夫氏」
になっておりますが、大利昌久さんのほうがい
です。たいへん失礼いたしました。

➤ 文献

蔵書目録をP7にのせました。必要な方は、コピ
ーをお願いしますので、事務局まで、お申しください。
〈事務局〉
新海写真館内 東京都国分寺市本多1-6-6

➤ 6月26日総会報告

6月26日 大橋区民会館で、おこなわれました総会
の報告をいたします。詳しくは、本号 談話室P5~
をごらんください。

一 総会決定事項一

- ①規約が一部改訂承認されました。改訂箇所は、
オ3条イ、オ6条IV、V、追加VI(今までのVIは
VIIになります。)、オ7条です。なお規約を本号
P6~P7にのせましたので、ごらんください。
- ②53・54年の運営委員は、以下のとおりになりました。
代表 荻山 泉
会計・総務 新海 栄一
KISHIDAIA 編集 熊田 憲一

他：栗原 輝代子 権田 皇雄
山田 川貞一 高木 裕登
田中 理恵 蓮 沼克己
松浦 祐司 (以上10名)

なお、会計監査を、園見 裕久さん、大熊 千代子
さんにしていたことに、なりました。

- ③本部：事務局 編集局 通信原稿受付の
所在は、規約を「ごらんください」。

以上が決定事項です。なお、運営委員は53
年より活動かとなります。52年12月まで「は、現在の
運営委員会が、全の運営に関係、いたしますので、
よろしく、お願、いたします。(以上)

➤ KISHIDAIA No.41

例会の席で、KISHIDAIAを受け
取られた方、41号は、このスタンフ
で、書き直しを打ってあります。スタンフ
を打、てほしい方は、例会などの
おりに、KISHIDAIAをおもち、ください。

(編集：熊田より)

KISHIDAIA 41号を受け取られました皆様、
内容は、いかがでしたか。せ、
KISHIDAIA 41号に、関、した、御意見、感想、
をお聞、かせ、下さい。お、待ち、しております。

(熊田)

41

会費：52年度会費は1500円です。
振り込み 東京 74885

梅雨が一番に、あける九州地方から、梅雨の
ない北海道まで、この通信が、飛んで、行くの
です。ね。飛んで、行く、た、け、で、なく、あ、ち、こ、ち、の
情報、を、と、ま、り、ま、せ、て、く、だ、さい。多少、記事、で、重
く、な、つ、て、も、50円、で、み、な、さ、ま、の、所、に、飛、び、こ、ん、で、
い、け、ます。次、回、は、9月、こ、ろ、お、め、に、か、か、れ
ま、す。よ、ろ、し、く。(田中)

東京虫蜘蛛談話会

本部：〒191
東京都日野市 豊田 1896
荻山 泉 方 TEL.04-25(81)7128

発行責任者：(通信原稿受付)

〒190-12
東京都西多摩郡瑞穂町武蔵 41
田中 理恵 TEL.0425(57)0355